

平成15年度
(2003)
第43回大会

男子優勝 札幌藻岩 女子優勝 札幌日大

【 大会寸評 】

大会期間は、晴天に恵まれ最高のコンディションで熱戦が繰り広げられた。団体戦男子は、札幌藻岩高が14年連続24回目、女子は札幌日大高が2年連続2回目の優勝と遂げた。特に、札幌日大高は主力選手が2年生ということで、今後の活躍が大いに期待される。惜しくも準優勝におわった男子の札幌日大高、女子の札幌清田高の健闘も目立った。また、第3位の学校を男女とも札幌勢が独占し、札幌勢強しを印象づける結果となった。

個人戦シングルスは、男子鈴木純希（札幌藻岩）、女子は田代美智（札幌清田）が優勝した。特に田代美智選手は準決勝で昨年度優勝者の武田選手（札幌日大）をタイブレークで、決勝は富山選手（札幌日大）を9-7のスコアで退け、その粘りのテニスは見事であった。全国大会に出場する男子は、木村慎吾（札幌日大）、武田芳明（札幌藻岩）、松本卓真（札幌光星）、女子は富山姫子（札幌日大）、小川加奈子（札幌日大）、武田麻衣（札幌日大）の各選手である。

個人戦ダブルスは、男子で第1・2シードが敗れる波乱があり、木村・土田組（札幌日大）が制した。女子では、富山・武田組（札幌日大）がネットプレーでポイントを重ね、試合巧者の田代・茂木組（札幌清田）を接戦の末退けた。全国大会に出場する男子は、松本・吉村組（札幌藻岩）、女子は田代・茂木組（札幌清田）の各選手である。

【 全国大会 】

今年度、インターハイテニス競技（女子団体決勝）が初めてNHK教育テレビで全国放送されることになり、試合進行が今までと変更になりました。さらに、初日の雨天で試合が一部順延となり、選手にはよりハードスケジュールとなりました。

大会は2日目以降、晴天が続く猛暑の中熱戦が繰り広げられました。特に今大会は、個人戦男女シングルスでビッグ4シードの選手が、誰も準決勝に残れないという前代未聞の大波乱となりました。原因は様々考えられますが、一つに全国上位選手と各地方選手の格差が減ったことで、初戦から接戦となりシードの体力消耗が大きかったこと。次に、今大会の砂入り人工芝コートはバウンドが遅くラリーが続くポイントが決まりにくかったこと。等が考えられる。

北海道勢は、団体で男女とも3回戦に進出。特に、女子の札幌日大高は、静岡市立高にリードする展開で、ベスト8が手に届いての惜しい敗退でした。個人戦ダブルスでは、男子は両ペアとも初戦を突破し、女子も富山・武田組（札日大）が、関東・九州勢を破り3回戦に進出したのは立派でした。個人戦シングルスでは、男子の鈴江選手（札幌藻岩）、女子の田代選手（札幌清田）、富山選手（札幌日大）が猛暑の中、見事3回戦に勝ち進み、『暑さに弱い北海道勢』を覆す活躍でした。今大会の女子選手は殆どが2年生ということで、未来のさらなる活躍を期待したい。

優勝のよろこび

男子 札幌藻岩高等学校

藻岩高校創立30周年という節目の年に優勝することができ、先輩方より代々受け継がれてきた連覇記録をつなげることができてとても嬉しいです。

我が部は、常に全国大会に目を向けて日々練習に励んでいます。全道大会で優勝することはそう簡単なことではありません。昨年度の大会で13連覇を成し遂げた瞬間から、今年度は自分が主将としてチームを勝利に導かなくてはならない立場になり、プレッシャーに押し潰されそうになったこともありました。しかし、監督の前之浜先生をはじめとする先生方の熱心なご指導や、OBの方々、父母の皆さんの温かいご支援に支えられて、自分たちの力を発揮することができました。ありがとうございました。

さらに、この輝かしい栄誉の陰には、僕が練習に集中できるように部員をまとめてくれる副部長や、つらいときに支えてくれ、試合では喉が潰れるほど応援してくれた仲間たち、レギュラーのためにコート整備やボール拾いをしてくれる後輩たちの存在がありました。彼らも含めた全員でつかんだ全道優勝です。

14連覇 オメデトーツ!!

(札幌藻岩高校 主将 鈴江 純希)

優勝のよろこび

女子 札幌日大高等学校

私たち3年生にとって最後のインターハイは「支部・全道優勝」という最高の締めくくりになりました。ジュニアからの経験者の多い部ですが、たやすく手に入った優勝ではありませんでした。主力選手がすべて2年生なので、高校最後の団体戦に自分たちが出られないという悔しさを抱えて全道大会を迎えましたが、後輩たちの一生懸命ボールを追う姿、悔し涙を流してはまた立ち向かっていく姿を見て、気づかぬうちに必死に応援している自分がありました。今思えば、先輩たちの分まで頑張ろう、後輩たちも期待に応えようと必死だったのです。そんな思いが伝わってくる素晴らしい戦いでした。男子は惜しくも準優勝に終わりましたが、声をからして応援してくれ、日大テニス部全員で勝ち取った「優勝」だったと実感しています。

札幌日大高校テニス部は、技術の向上はもちろん、気持ちを大切にする部です。大好きなこの部で多くの人に触れ、たくさんのことを学び、大切な仲間と同じ目標に向かうことによって人間的にも成長することができました。目標はあくまでも「全国で勝つこと」ですが、後輩たちには、初心を忘れず、より良い試合をしてほしいと期待しています。

3年間、私たち一人ひとりを理解し、見守って下さった我妻先生、本当にありがとうございました。そして、今まで支えてくれた仲間たちに心から感謝しています。

(札幌日大高校 主将 向久保 まみ)

全国高校総体 (第93回全国高等学校庭球選手権大会) 長崎

7月29日～8月4日

長崎市総合運動公園かきどまり庭球場
長崎市営庭球場

男子	個人戦シングルス	優勝	澁谷 祐樹 (明石城西)
女子	個人戦シングルス	優勝	田中 真梨 (共栄学園)